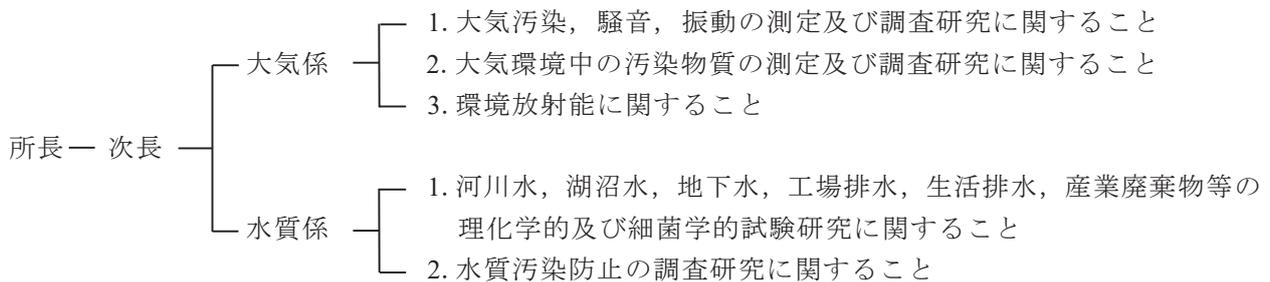


1. 沿革

| | |
|-------------|---|
| 昭和23年 6月25日 | 奈良県告示第167号を以て、奈良市登大路町奈良県庁内に奈良県衛生研究所を設置 |
| 昭和28年 3月31日 | 奈良県条例第11号を以て、奈良市油阪町に庁舎を新築移転 |
| 昭和41年 3月30日 | 奈良市西木辻八軒町に奈良保健所との合同庁舎を新築移転 |
| 昭和46年 3月24日 | 奈良市大森町に独立庁舎を新築移転 |
| 昭和46年 5月 1日 | 奈良県行政組織規則の改正により、総務課、環境公害課、予防衛生課の3課を設置 |
| 昭和48年 4月 1日 | 奈良県行政組織規則の改正により、食品化学課を新設 |
| 昭和50年 2月28日 | 前庁舎に接して約 1,276 m ² の庁舎を新築 |
| 昭和62年 4月 1日 | 奈良県行政組織規則の改正により、総務課、公害課、環境課、食品化学課、予防衛生課の5課制に編成替え |
| 平成 2年 4月 1日 | 奈良県行政組織規則の改正により、総務課、大気課、水質課、食品生活課、予防衛生課に編成替え |
| 平成12年 4月 1日 | 県感染症情報センターを所内に設置 |
| 平成14年 4月 1日 | 奈良県行政組織規則の改正により、奈良県保健環境研究センターと名称変更し総務課と試験研究グループ(大気環境担当、水環境担当、食品担当、ウイルス・細菌担当)に編成替え |
| 平成18年 4月 1日 | 奈良県行政組織規則の改正により、総務課、精度管理担当、大気環境担当、水環境担当、食品担当、ウイルス・細菌担当に編成替え |
| 平成22年 4月 1日 | 技術担当を置く |
| 平成23年 4月 1日 | 技術担当を解く |
| 平成25年 4月 1日 | 奈良県行政組織規則の改正により、大気環境担当及び水環境担当は奈良県景観・環境総合センターの試験研究部門として大気係、水質係に編成替え。奈良県保健環境研究センターは奈良県保健研究センターと名称変更し、総務課、精度管理担当、食品担当、細菌担当、ウイルス・疫学情報担当に編成替え。試験研究施設は桜井市栗殿に新築移転。 |

2. 組織(試験研究部門のみ)

(1) 機構と事務分掌(令和2年4月1日現在)



(2) 職員構成

(令和2年4月1日現在)

| 区分 | 事務職員 | 技術職員 | | | | 計 |
|-----|------|------|-----|------|-------|----|
| | | 薬学 | 獣医学 | 理工農学 | 臨床検査学 | |
| 所長 | 1 | | | | | 1 |
| 次長 | | | | 1 | | 1 |
| 大気係 | | | | 6 | | 6 |
| 水質係 | | | 1 | 5 | | 6 |
| 計 | 1 | | 1 | 12 | | 14 |

(3) 職員名簿

(令和2年4月1日現在)

| 係名 | 職名 | 氏名 | 係名 | 職名 | 氏名 |
|-----|--|--|-----|--|--|
| | 所長 | 白川佳朗 | | | |
| | 次長 | 高木康人 | | | |
| 大気係 | 統括主任研究員 副主幹 主任研究員 主任研究員 主任主事 主任主事 | 伊吹幸代 杉本恭利 北岡洋平 山本真緒 高林愛希 吉田実希 | 水質係 | 統括主任研究員 指導研究員 主任研究員 主任研究員 主任研究員 主任研究員 | 城山二郎 浦西克維 辻本真弓 長尾舞 浦西洋輔 平井佐紀子 |

3. 施 設（試験研究施設のみ）

(1) 土 地

（令和2年4月1日現在）

| 地 名 | 地 目 | 面 積 | 現在の状況 | 所 有 者 |
|---------------|-----|------------------------|-------|-------|
| 桜井市栗殿 1000 番地 | 宅 地 | 8,741.86m ² | 宅 地 | 奈 良 県 |

(2) 建 物

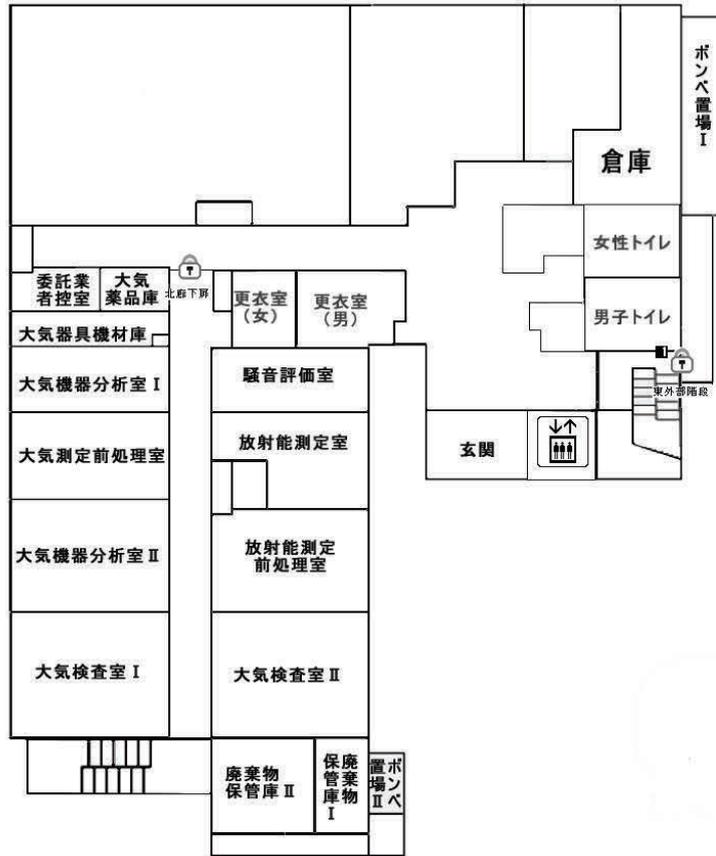
（令和2年4月1日現在）

| 施 設 | 面 積 | 使用開始年月日 | 建物経過年数 | 所 有 者 |
|----------------|------------------------|--------------------|--------|-------|
| 本館鉄筋コンクリート 4 階 | 3,264.17m ² | 平成 25 年 4 月 1 日 | 7 年 | 奈 良 県 |
| （ 本 館 1 階 ） | (860.13) | | | |
| （ 本 館 2 階 ） | (786.77) | | | |
| （ 本 館 3 階 ） | (786.77) | | | |
| （ 本 館 4 階 ） | (786.77) | | | |
| （ 本 館 P1 階 ） | (43.73) | | | |
| 倉庫 | 7.00 | 平成 25 年 4 月 1 日 | 7 年 | |

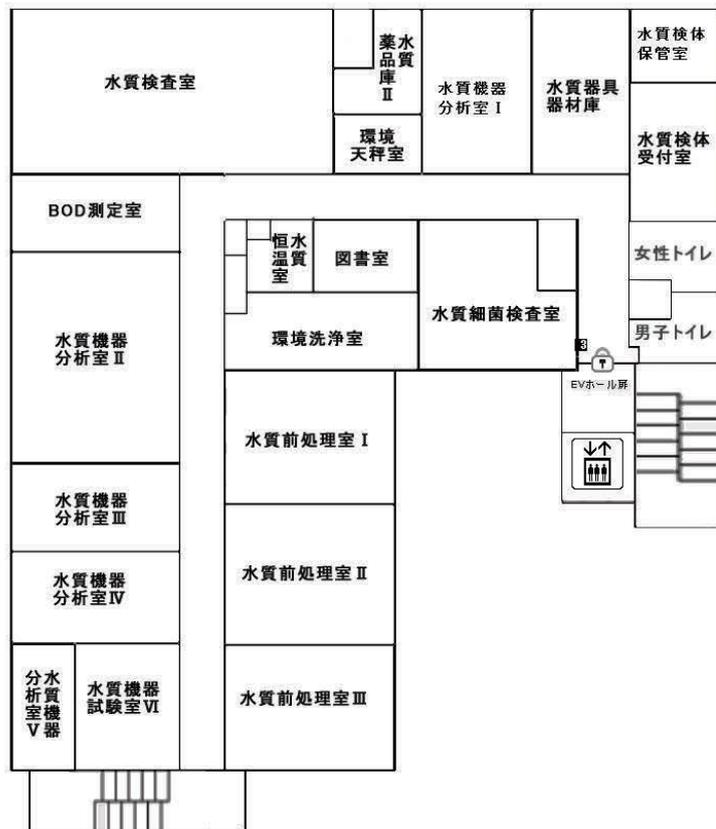
※大気係は1階西棟，水質係は2階全棟にて試験研究を実施.

(3) 奈良県景観・環境総合センター試験研究施設 配置図

(1階)



(2階)



4. 新規購入備品（単価 20 万円以上）

| 品 名 | 規 格 | 購入年月日 |
|----------------------------|---|---------|
| ヘッドスペース ガスクロマトグラフ質量分析装置 | 島津製作所(株)製 HS-20/GCMS-QP2020NX | R1.8.30 |
| 卓上型濁度計・色度計 | 日本電色工業(株)製 WA6000T | R2.2.20 |
| 紫外可視分光光度計 | Thermo Fisher Scientific社製 Evolution 220 | R2.3.13 |
| キャニスターサンプリングタイマー | エンテック社製 TM1200S | R2.3.16 |

5. 予算及び決算（平成 31 年度）

検査手数料（証紙収納額）

（単位 円）

| 種 別 | 内 訳 | 予 算 額 | 証紙収納額 |
|----------------|------|-----------|-----------|
| 景観・環境総合センター手数料 | 大気試験 | 143,000 | 0 |
| | 水質試験 | 3,023,000 | 2,893,130 |
| 合 計 | | 3,166,000 | 2,893,130 |

歳 出

（単位 円）

| 款・項・目 | 予 算 額 | 支 出 額 | 残 額 |
|---------------|------------|------------|-----------|
| (款) 医療政策費 | 329,000 | 313,213 | 15,787 |
| (項) 保健予防費 | 329,000 | 313,213 | 15,787 |
| (目) 保健研究センター費 | 329,000 | 313,213 | 15,787 |
| (款) くらし創造費 | 25,736,050 | 23,767,201 | 1,968,849 |
| (項) 環境管理費 | 25,736,050 | 23,767,201 | 1,968,849 |
| (目) 環境保全対策費 | 17,409,000 | 16,432,065 | 976,935 |
| (目) 廃棄物対策費 | 8,327,050 | 7,335,136 | 991,914 |
| 合 計 | 26,065,050 | 24,080,414 | 1,984,636 |

*景観・環境総合センター大気係および水質係執行分のみ計上（人件費を含まず）

6. 企画情報関連

(1)職員の出席した学会，研究会，講習会，研修会等

i) 大気係

| 年・月・日 | 内 容 | 開 催 地 |
|---------------------------------------|---|---------------------------|
| H31. 4. 5 4.23～26 | FFT セミナー「基礎からわかる FFT アナライザー」 環境放射能分析研修「環境試料の採取及び前処理法」 | 横浜市 千葉市 |
| R 1. 6. 5 6. 6 6.25～26 | 第 12 回食品分析 SEG-EMS (ゲルマニウム検出器) セミナー Dionex IC 技術説明会 2019 II 型共同研究「光化学オキシダント及び PM _{2.5} 汚染の地域的・気象的 要因の解明」キックオフ会合 | 東京都 豊中市 つくば市 |
| 9. 6 9.18～20 | 全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部総会 第 60 回大気環境学会年会 | 大津市 東京都 |
| 10.17 10.25 | 低周波音測定評価方法講習会 第 13 回食品分析 SEG-EMS (ゲルマニウム検出器) セミナー(中級) | 大阪市 東京都 |
| 10.28～11. 1 10.31 | アスベスト分析研修 全国環境研協議会企画部会騒音振動担当者会議 | 所沢市 東京都 |
| 11. 5～6 11.14～15 | II 型共同研究 オキシダント関係グループ会合 第 46 回環境保全・公害防止研究発表会 | つくば市 津市 |
| 11.15 11.25～26 | 第 37 回全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部共同調査研究 (越境/広域大気汚染) 勉強会 II 型共同研究 PM 高濃度気象解析グループ会合 | 大津市 つくば市 |
| 12.17 | 微小粒子状物質 (PM _{2.5}) の測定精度に関する説明会 | 大阪市 |
| R 2. 1.21 1.22 1.23 1.23～24 | 全国環境研協議会総会 地方公共団体環境試験研究機関等所長会議 II 型共同研究オキシダント PM グループ東海近畿チーム打ち合わせ 第 34 回全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部研究会 | 東京都 東京都 大阪市 大阪市 |
| 1.23～24 1.28 2.13～14 2.25～26 | 化学物質環境実態調査環境科学セミナー 環境放射能分析研修「放射線の人体影響概論」 第 35 回全国環境研究所交流シンポジウム Waters システム操作説明会 | 東京都 千葉市 つくば市 桜井市 |

ii) 水質係

| 年・月・日 | 内 容 | 開 催 地 |
|---------------------------|---|--------------------|
| H31. 4.26 | ビーエルテック 告示及び JIS K 0102 ならびに JIS K 0170 の改正に伴 うセミナー | 神戸市 |
| R 1. 6. 6 6.11 7. 1 | Dionex IC 技術説明会 ビーエルテック 第 7 回オートアナライザー・メンテナンスセミナー II 型共同研究「WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ」 | 豊中市 名古屋市 村山市 |

| | | |
|--------------|---|------|
| 7.19 | 質量分析フォーラム 2019 | 大阪市 |
| 8. 7 | FT-IR サマーセミナー2019 | 大阪市 |
| 9. 5 | 第 43 回瀬戸内海水環境研究会議 | 広島市 |
| 9.30～10.11 | 環境汚染有機化学物質分析研修 | 所沢市 |
| 11. 4 | 環境 DNA 学会公開シンポジウム | 神戸市 |
| 11. 7～8 | II型共同研究「LC-MS/MS による分析を通じた生活由来物質のリスク解明に関する研究」 | 仙台市 |
| 11.14～15 | 第 46 回環境保全・公害防止研究発表会 | 津市 |
| 12.23 | II型共同研究「WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ」 | 熊本市 |
| R 2. 1.23～24 | 第 34 回全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部研究会 | 大阪市 |
| 1.23～24 | 化学物質環境実態調査環境科学セミナー | 東京都 |
| 2.13～14 | 第 35 回全国環境研究所交流シンポジウム | つくば市 |
| 2.21 | 令和元年度全国環境研協議会東海・近畿・北陸支部有害化学物質部会 | 桜井市 |

(2) 当センター職員を講師とする講演会、技術・研修指導

| 年・月・日 | 内 容 | 対 象 者 | 担 当 |
|----------------|-------------------------|--------------------------|-----|
| R 1.10.8～10.11 | 平成 31 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習 | 奈良県立医科大学 医学部 4 年生 4 名 | 水質係 |

(3) 当センターで開催した会議

| 年・月・日 | 内 容 | 出 席 者 | 担 当 |
|-----------|---|------------------|-----|
| R 2. 2.21 | 令和元年度全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部有害化学物質部会 (於：奈良県保健研究センター会議室) | 地方環境研究所職員等計 31 名 | 水質係 |

(4) 国立環境研究所・地方環境研究所との共同研究

地方公共団体環境研究機関等と国立環境研究所との第 II 型共同研究

- 「WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ」水質係 平井佐紀子 長尾舞
「LC-MS/MS による分析を通じた生活由来物質のリスク解明に関する研究」水質係 浦西洋輔
「光化学オキシダント及び PM_{2.5} 汚染の地域的・気象的要因の解明」
大気係 杉本恭利 山本真緒 吉田実希

(5)景観・環境総合センター研究発表会 ※詳細は本誌第3章第5節(2)参照

i) 令和元年 6月28日

- 「大気中 PM_{2.5} での局所的汚染事例における要因同定について」 大気係 山本真緒
「WET 法による紀の川水系の生物影響評価について」 水質係 平井佐紀子
「コンピューターシミュレーションによる環境中における化学物質の動態把握について」 水質係 浦西克維

ii) 令和2年 2月28日

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

(6)外部評価制度

i) 外部評価制度の導入

調査研究業務に客観的かつ公正な評価を加え、調査研究の充実とその成果の普及を図ることを目的に、平成19年度から保健環境研究センターとして外部評価制度を導入している。

平成25年度からは、保健環境研究センター大気環境担当・水環境担当が、景観・環境総合センター大気係・水質係へと組織変更され、保健環境研究センターは保健研究センターと名称変更されたが、外部評価制度は両者合同で行っている。

外部評価委員 (平成31年4月1日現在)

| | 氏名 | 所属 |
|----|-------|----------|
| 委員 | 矢野 寿一 | 奈良県立医科大学 |
| 委員 | 多賀 淳 | 近畿大学 |
| 委員 | 須崎 康恵 | 奈良県立医科大学 |
| 委員 | 瀬戸 繭美 | 奈良女子大学 |
| 委員 | 山田 誠 | 龍谷大学 |

ii) 令和元年度評価対象となった調査研究(当センター分のみ抜粋)

| 担当 | 主任研究者 | 課題名 | 共同研究者 |
|-----|-------|-------------------------|----------------|
| 大気係 | 杉本 恭利 | 奈良県における大気粉じん中六価クロムの濃度調査 | 山本 真緒 吉田 実希 |
| 水質係 | 浦西 洋輔 | 紀の川水系における農薬残留実態調査 | 浦西 克維 |

iii) 外部委員による総合評価

令和元年度の調査研究について、全体を通じ次のように評価された。

- ・学会発表や年報掲載だけでなく、学術誌へ投稿することを期待する。
- ・丁寧な実験を行い、既報の調査も十分にしたうえで、各方法論の最適化、高度化を実現している。
- ・業務が多く負担が大きいだろうが、今後も継続して、積極的に調査研究することを望む。
- ・研究目標に対し、一定の成果が得られた。
- ・一般市民からは成果の重要さの理解が困難と感じられる。特にリスク評価の部分は平易な言葉で説明すると、リスクコミュニケーション面でより高く評価できる。
- ・研究分野の背景などを引用し、研究結果をどのようにつなげていくかを明確にする必要がある。

iv) 外部委員による個別評価

外部委員による評価は、①目的・目標の達成度、②県民・社会的ニーズへの波及効果、③行政施策への貢献度、活用性、④成果の学術的意義、⑤今後の発展性の観点から行われる。

それぞれについて、5段階評価で行い各委員の平均で表した。

